

「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会
第6回公共交通ネットワーク検討部会 摘録

1 日 時 平成21年3月13日（金）17時～19時15分

2 場 所 平安会館 「平安の間」

3 出席者 別紙出席者名簿

4 議事次第及び内容

(1) 開会

中川部会長挨拶

(2) 議事

ア 各交通社局の取り組み内容について

イ 具体的な施策の考え方（骨子案）について

<各交通社局の取組内容発表>

(3) 意見交換

(部会長)

- 大変前向きに発表をいただき、ありがとうございました。本日は、これまでの各社局の取組や部会長ヒアリングを踏まえて、バス、鉄道それぞれで、我々から見て積極的に取り組もうとされていると感じられた順番に発表頂いた。ただそれは現時点での順番であるので今後変わっていくなかで、そういう順番をつける必要はなくなると思う。

(委員)

- 1点目として、公共交通優先のライフスタイル検討部会として、市民委員や市民アンケートを通じた市民の声に対し、各社局に検討頂いた事に関して、各社局の皆様に御礼申し上げたい。
- 2点目として、歩くまち京都が目指す水準と現実の間に巨大な社会的費用が存在している。このことを言い換えて市民に問うと、環境や歴史のある京都において、9割以上の市民はクルマ以外の交通手段がふさわしいと回答し、半分以上の方が実際に行動に移している。このように巨大な社会的費用を認識し解決するためには、クルマをあきらめなければならないことを、市民も認識して頂いていることをお伝えしたい。
- 3点目として、完全なプライベートな存在である市民であっても、社会的費用を認識して行動を変えようとし、また実際に変えている状況を踏まえると、交通サービスを提供している行政や事業者がそれに応えないということは、失礼で、無礼なことではないか。ぜひここは男気を魅せて頂きたいと思う。

- 4点目として、京都市民の立場にたって申し上げると、ぜひ各社局には連携をとって頂きたい。連携を取らないことで発生している巨大な社会的費用を放置していることは、捕まりはしないが不作為の罪である。巨大な社会的費用を解消するために、是非連携して頂きたい。
- 知らないから連携していないということもあるだろう。しかし、社会的費用を軽減できる技術的情報は、中川先生はじめ技術者は持っているのです、是非勉強頂きたい。例えば、ダイヤを2分変えるだけで巨大な社会的費用が解消できる。また駅前の巨大なバスターミナルも、ほかの基準でなく利用者便益に基づいて、誰がどう使うのかを整理すれば、社会的費用が解消出来る。是非やって頂きたいと、お願い申し上げます。

(委員)

- 端的に言えば、スルッと KANSAI の目標は、社局視点ではなく利用者視点にたって、一つの交通機関のように利用できる公共交通ネットワークを創出することであり、積極的に関わらせて頂きたいと思っている。
- 京都市交通局が退場勧告というショッキングな文書が提出されたが、部会長の並々ならぬ御決意が感じられた。ただ交通局に退場されると窓口が無くなるので、皆さん困惑されている節もあるかもしれないので、次回の検討部会までに、部会長、歩くまち京都推進室、交通局で善後策を協議頂きたい。

(部会長)

- 退場していただいたからといって、市民や観光客や他の交通社局の皆様にご迷惑をかけることは一切ないし、絶対すべきではない。我々もそのように努力するし、それを念頭に勧告させて頂いている。

(委員)

- 今日、各社局の想いを一同に聞けたことは、非常に意義がある。是非、社局間の連携を活かしていただきたい。特にワーキングを立ち上げている、洛西地域や京都市内一日乗車券の実現を、ぜひ目指していただきたい。

(委員)

- 市民に対し、各社局の非常に前向きな決意表明があった。また連携についても、非常に積極的に実施していくことを表明された。このことから、公共交通の利便性が大きく向上することを期待できるものであった。
- ソウルは準公営で運営しているが、京都の場合は社局自らが進んで連携するという方法であり、実現すれば、間違いなく世界中から注目されるものと、非常に関心をもっている。
- 決意表明では「全力で」と書いてあっても、京都市内一日乗車券の書きぶりには温度差が表れていると思う。やる気のない社局については、「検討する」「検討する予定である」と書かれているところもある。検討するのであれば、何をいつまでに検討するのかを具体的に、条件付きで賛成ならば具体的な条件を明示すべきである。次回の検討部会に期待したい。

(委員)

- 全国のモデルではなく、世界のモデルとなるように読み替えて欲しいと冒頭に部会長は言われたが、今日の社局の発表の中には、自己中心的なものもあった。各社局ともにプライドを持って仕事に取り組まれていることもわかったが、プライドが連携を邪魔することもあるかもしれないことをお伝えしたい。プライドをミキシングしつつ、プロの技を見せながら、連携を取っていただきたい。

(部会長)

- 本日の発表を通じて、全国モデルという目標は、すでに達成していると感じている。諮問を受け取られた北村先生は、全国レベルで留まって良いとは絶対に言わない。我々が目指すのは、世界最高水準である。我々は、計画に盛り込まれたことは、全て実行することを忘れないようにしていただきたい。
- 今日は、前向きな発表を頂き、誠にありがとうございました。

(事務局)

- 来週、社局への部会長ヒアリングを経て、年度内に第7回部会の開催を予定している。

(6) 閉会（水田交通政策監）

- 長時間に渡り、ありがとうございました。京都の公共交通が大きく変革していく、市民の皆様が便利で安心して利用いただき、世界に誇れる公共交通ネットワークの創出に結びつくことを確信した。諮問内容にあったように、新たな視点に立って大胆に進めていくことが必要である。
- 本日は大変多くのおみなさまに傍聴に駆けつけていただき、誠にありがとうございます。皆様方がこの検討部会で実感頂いたことが、これからの出発点になると思われる。改革が行われる時には、大きなリスクを伴うが、今日が新たな出発点であると事務局も感じている。
- 公共交通ネットワーク検討部会を通じて、京都の公共交通が世界に誇れるモデルとなるよう、連携を図りながら頑張っていきたい。本日は誠にありがとうございました。

「歩くまち・京都」総合交通戦略策定審議会
第6回公共交通ネットワーク検討部会 出席者名簿(敬称略)

(別紙)

所 属	出 席 者			
京 都 大 学 大 学 院	工学研究科教授	中川 大	工学研究科助教	大庭 哲治
京 都 工 芸 織 維 大 学	教授	森本 一成		
叡 山 電 鉄 株 式 会 社	総務部経理課長	牧野 清貴		
近 畿 日 本 鉄 道 株 式 会 社	鉄道事業本部企画統括部計画部	岩崎 正義		
京 阪 電 気 鉄 道 株 式 会 社	鉄道企画部課長	前田 勝		
京 福 電 気 鉄 道 株 式 会 社	鉄道部運輸課長	三宅 章夫		
西 日 本 旅 客 鉄 道 株 式 会 社	京都交流推進委員会事務局次長	河田 邦博		
阪 急 電 鉄 株 式 会 社	都市交通計画部調査役	樋口 賢		
京 都 バ ス 株 式 会 社	運輸部次長	清水 克之		
京 阪 京 都 交 通 株 式 会 社	管理部企画業務課係長	辻 栄一		
京 阪 シ テ ィ バ ス 株 式 会 社	取締役支配人	笠松 俊夫		
京 阪 バ ス 株 式 会 社	企画部課長	小西 実		
西日本ジェイアールバス株式会社	営業部リーダー	田村 紀人		
阪 急 バ ス 株 式 会 社	自動車事業部業務課長	上床 隆司		
株 式 会 社 ヤ サ カ バ ス	取締役統括部長	坂本 雅彦		
ス ル ッ と K A N S A I 協 議 会	事務局長	横江 友則		
国 土 交 通 省	近畿地方整備局建政部都市整備課課長補佐	河野 純一		
	近畿運輸局企画観光部交通企画課長	堤 俊哉	近畿運輸局自動車交通部旅客第1課長	下谷 富雄
京 都 府	建設交通部交通対策課長	松村 憲次		
京 都 府 警 察 本 部	交通部交通規制課課長補佐	前田 昭人	交通部交通規制課調査官	増永 淳三
	交通部交通規制課係長	山口 正則		
京 都 市 交 通 局	高速鉄道部長	真下 清	自動車部長	岡崎 弘

東 京 工 業 大 学 大 学 院	理工学研究科教授	藤井 聡	(公共交通優先のライフスタイル検討部会副部会長)	
京 都 大 学 大 学 院	工学研究科准教授	松中 亮治	(未来の公共交通まちづくり検討部会副部会長)	

京 都 市 (事務局 課長級以下略)	交通政策監	水田 雅博	都市計画局長	里見 晋
	都市計画局歩くまち京都推進室長	佐伯 康介	建設局土木管理部担当部長	二木 久雄
	交通局企画総務部担当部長	木村 繁		